

令和8年度

全国学力・学習状況調査、丹波篠山市学力・生活習慣状況調査より

丹波篠山市立八上小学校

全国公立の中学校3年生及び小学校6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査（全国調査）、5年生を対象に実施された丹波篠山市学力・生活習慣状況調査（市調査）の結果を分析しました。

テストの結果だけで学力を測定することはできないことも事実ですが、この結果を授業や学校生活の工夫改善、家庭学習の充実につなげていきたいと考えております。保護者の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

（１）【算数】

6年生では、「測定」の領域で全国を上回る結果でした。一方で、「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域においては課題が見られました。特に、問題文から注目すべき情報を読み取ることや、抽象的な概念を図や表を関連付けて考えることが難しかったようです。例えば、「 $5/3$ を表す目盛りが示された数直線上で、1を表す目盛りを選ぶ」という問題に答えられた児童は3割以下でした。5年生では、全体的に全国平均を下回る結果となりました。特に「図形」「データの活用」の領域で課題が見られ、問題文を表した図を選ぶ問題や平行四辺形をかく問題が難しかったようです。

今後は、読み取った文章問題の内容を図や式に表したり、他教科でも複数の資料や文章から大切な情報を見極めたりする活動をより充実させていきます。四則計算や作図などの基礎的な知識や技能の定着に向け、練習問題の復習・反復練習にも引き続き取り組みます。

（２）【国語】

6年生では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域において、全国平均並みの成果が出ています。一方で、「情報の扱い方に関する事項」の領域においては課題が見られました。特に、多くの情報が含まれる資料や文章の中から、必要な情報を選び出して読み取ることが難しかったようです。5年生では、全体的に全国平均を下回る結果となりました。特に問題文や問いの文を読み取ることや、「修飾語」と「被修飾語」の意味や使い方にも課題が見られました。解答時間の配分にも課題があり、最後まで解き切れなかった児童もいたと考えられます。また、5・6年生共通して見られる「書くこと」の課題として、細かい条件（引用の仕方など）に合うように書くことがあります。

今後は、文章の大切な部分に印をつけたり、キーワードを見つけたりしながら読むことや、条件に応じた書き方や、根拠に基づいて記述する力を育てていきます。また、国語に限らず他教科においても資料を読み解く場面を取り入れ、教科横断的に力をつけていきたいと考えています。

子どもたちの学びの地図である学習指導要領（10年に一度改定）には、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性など」の3つの力をバランスよく育むことが理念としてあげられています。激しく変わりゆく時代、その変化に合わせて学校に求められる学びも変わってきています。また、今の子どもたちが大人になる頃、求められる人材も今とはちがったものになっていることが予想されます。これからの

時代を見据え、主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の視点から「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」ということを重視して、生きる力を育むことをめざしています。本校では、学校教育目標の1つに「考えを深め合う児童の育成」を掲げています。どの教科においても、基礎基本を充実させるとともに、自分事として捉え、友だちとの関わり合いの中で学びを深めることに継続して取り組んでいきます。また、今年度も全校で取り組んでいる「学び合い」の中で、同学年・異学年の友だちとの関わり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還させながら、児童が自らの学びを調整する力を育成します。さらに、気づき、疑問、ふりかえりを大切にし、基礎基本の定着にも力を入れていきます。今後ともご家庭と協力しながら子どもたちの学力向上に取り組んでまいります。ご家庭でも子どもたちの学習のサポートをよろしくお願いいたします。

